企業名：積水化成品工業

レポート名：統合報告書 2021

1.　この会社が目指す姿が理解できるか

積水化製品工業の目指す姿については、最初のページに『グローバルに顧客から信頼されるプラスチック・ソリューション・カンパニー』と簡潔に記されている。また、他のページには、2059 年を目標にプラスチックを基軸としながらグローバル展開し、課題解決によって顧客からの信頼を獲得することを目指していると書かれていた。

こうした目指す姿は、統合報告書の後のページに書かれている内容と一貫しており、分かりやすい。例えば 3 ページには、積水化成品グループの目標として産業界・生活改革・地球環境に貢献することがあげられており、そのために積水化成品グループが有する素材・技術・システムを用いると書かれている。この内容は、グローバルなソリューション・カンパニーを目指すにあたってどうすべきなのかを明確に表していて、非常に理解しやすい。目指す姿と、そのために行うべきことを具体例を挙げながら説明し、2059 年という目標も掲げていることで、積水化成品グループの目指す姿は説得力を持ち、理解しやすいものとなっている。

2.　この会社の競争優位性が理解できるか

積水化成品工業の競合優位性といえば、まずはプラスチック製品業界の中でトップの売上総利益を誇っていることにあるだろう。現在最も売り上げを上げていて知名度もあるというのは、十分な競合優位性とみなせるはずである。しかし、積水化成品グループの競争優位性は、それだけではない。積水化成品グループの競争優位性として、統合報告書の中には ESG というものが挙げられている。ESG とは、 Environment, Society, Governance の頭字語である。

まず環境についてである。積水化成品グループは国内外の環境に対する影響を全て管理し、その削減に努めている。特に、発泡ポリスチレンのリサイクルにおいては非常に重要な役割を担っており、発泡スチロール協会の設立にも関わっている。

次に、社会についてである。積水化成品グループは、保安委員会というものを設置しており、ゼロ災害運動、保安運動、品質、人権・労働慣行を実際に行うことで社会からの信頼向上を図っている。中でも、保安活動は、会社内だけではなく地域との連携も図っており、社会全体の保安に貢献しているのが窺える。

最後に、ガバナンスについてである。積水化成品グループは、コンプライアンスの徹底と公正な事業慣行の遂行を宣言している。そのための取り組みとして、監査役五名のうち三名を社外監査役とし、経営判断の合理性・透明性・公平性を確保していることが挙げられる。

積水化成品グループがガバナンスへの取り組みを始めたのは2009年と比較的最近ではあるが、十分なコーポレート・ガバナンス体制が出来上がっていると考えられる。

積水化成品グループは、環境・社会への貢献をすると同時に、ガバナンスを遵守している。発泡プラスチック業界におけるトップ企業であるだけで満足せずに、環境や社会のことを考えている点が、積水化成品グループの優位性だといえるだろう。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

現在プラスチック業界でトップの売上を誇っている点と、環境や社会に対して貢献を行なっている点が、積水化成品グループの競合優位性だと述べた。次に、この二つの優位な点が持続するのかについて述べていく。

一つ目の売上トップという優位性は、持続していくか定かではないと感じた。というのも、近年は旭有機材が売上を伸ばしていて積水化成品グループの売上を超えそうであり、また積水化成品グループの売上高がこの二年ほど下がってきていることが統合報告書から分かるためである。

二つ目の環境や社会への貢献をしているという優位性は、持続していくと感じた。まず、積水化成品グループは、2020年にSKG-5Rという取り組みを開始した。これは、環境貢献製品の創作と二酸化炭素排出量の減少を二大目標に掲げた取り組みであり、始めて一年しか経っていないが実績を上げている。また、SKG-5Rの他にも、近年改正された食品衛生法への対応に力を入れたり、新型コロナウイルス対策にも精力的に取り組んだりしている。特に、新型コロナウイルスに対しては、新型コロナウイルス感染症緊急事態対策本部を設置し、調達・生産・物流・販売の在り方を大幅に見直すことで、コロナウイルスによる社会への影響を抑え、社会に貢献しようと試みているのが統合報告書に記されていた。

以上より、売上トップという優位の持続性は確実とはいえないが、環境・社会への貢献という優位の持続性は確かだといえるだろう。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

積水化成品グループは、現在働き方改革に力を入れている。従業員満足度調査やフォーラムを定期的に実施し、社員一人ひとりのライフステージや価値観を尊重した柔軟な働き方を目指しているという。

また、それだけではなく、積水化成品グループは全員経営をモットーに掲げて活動を行なっている。全員経営とは、トップダウンによる命令に従うのではなく、自分で考え提案し行動していくという考え方であり、一人一人の個性や強みの向上が重視されている。さらに、積水化成品グループは、その全員経営を実現させるために全員経営カードを全社員に配布しているという。

上記の二つから、積水化成品グループは、社員の働きやすさを確保するだけでなく、社員の人的資本の価値向上を手助けしてくれる会社だといえるだろう。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

社長メッセージでは、SKG-5R について語られている。しかし、SKG-5R の詳しい説明は社長メッセージの後に掲載されているため、社長メッセージが少し読みにくくなってしまっていると感じた。掲載順序により気を配るようにすれば、さらに分かりやすい統合報告書となるだろう。